

令和 5 年度事業実施計画の実施結果

1 被害防止対策の推進

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況
(1) 人身被害の防止	《道民等に対する注意喚起》 令和 3 年度、札幌市東区や旭川市の中心部にヒグマが出没し、令和 4 年度も全道各地で人の生活圏への出没が増加した状況を踏まえ、特に市街地などこれまでヒグマが出没していなかった地域や出没に慣れていない地域の住民、さらには来道される観光客などに対して、ヒグマの生態やヒグマ管理の基本的な考え方について周知、理解の促進を図るため、ヒグマパネル展を開催【7 月または 8 月】	○ヒグマパネル展の開催 ①日時：4/13、14 場所：道庁 1 階特設展示場 ②日時：8/4～8/7 場所：札幌地下歩行空間 北 1 条東憩いの空間 ③日時：9/15～9/19 場所：道庁 1 階特設展示場 ④日時：2/5～2/16 場所：議会事務局
	(総合) 振興局管内でのパネルリレーの実施【通年】	○5 振興局（石狩、留萌、オホーツク、十勝、釧路）で実施
	ヒグマに出遭わないための基本的なルールやヒグマの生態などについて、パンフレットや広報誌、インターネット等の各種広報媒体を通じた周知【通年】	○外国語版を含むリーフレット 72,000 部（日 40,000 部、英・韓・中（簡・繁）各 8,000 部）を作成し市町村やレンタカー会社等に配布 ○設問に回答しながらヒグマに関する知識や注意点、対処法などを学べる Web コンテンツ「ヒグマ検定」を作成（1 月末時点で約 14,000PV） ○様々なテーマ・スタイルでヒグマについて考えるきっかけを提供するイベント「ヒグマフェス 2023」の開催（来場約 4,000 人） ○上記コンテンツ・イベントの告知等（TV・ラジオ CM、番組での紹介、パネル展、チラシ、リーフレット配布） ○上記イベントの様子を HBC ニュース等で周知（HBC LINE ニュース登録者数 318,000 人） ○5 振興局（石狩、留萌、オホーツク、十勝、釧路）で実施したパネルリレー等において来場者に対しリーフレットを配布。
	インターネットや SNS を活用したヒグマ出没情報の提供【通年】	○X（旧ツイッター）の発信及び道警が発信した X をリポスト ○Yahoo 防災の発信 101 件
	山野に入る機会が多くなる春と秋に「ヒグマ注意特別期間」を設定し、注意喚起、巡視活動を強化【春の注意特別期間 4～5 月、秋の注意	○春の注意特別期間（4 月 1 日～5 月 31 日） ・ホームページ、ツイッターによる周知 ・5 月 26 日中山峠において、石狩振興局が道警と合同で入山者に対す

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況
	特別期間 9～10 月】	<p>る啓発を実施</p> <p>○秋の注意特別期間（9 月 2 日～11 月 30 日）※出没が継続していたことから 10 月 31 日から 1 カ月延長。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ツイッターによる周知 ・9 月 14 日藻岩山登山口において、道警、札幌市と合同で入山者に対する啓発を実施
	「北海道ヒグマ注意報等」の運用により道民等にヒグマに対する積極的な注意喚起を促し、更なる被害発生、拡大等を防止【通年】	<p>○北海道ヒグマ注意報等の発出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意報（13 件）※R4：5 件 ① 厚岸町：4/1～4/30 ② 室蘭市：5/13～6/12 ③ 小樽市の東部地域（星野町、見晴町）の山麓周辺：6/15～7/14 ④ 羅臼町（知床岬）：7/5～8/4 ⑤ 札幌市西区・南区の山麓周辺：7/15～8/14 ⑥ 江差町全域：8/3～10/2 ⑦ 松前町全域：9/27～10/26 ⑧ 札幌市西区と手稲区の一部地域：10/6～11/5 ⑨ 釧路市（阿寒町布伏内）：10/13～11/12 ⑩ 札幌市、江別市、北広島市の野幌森林公園の区域及びその周辺：8/18～11/17 ⑪ 石狩市（浜益区）：9/29～11/28 ⑫ 福島町字千軒（大千軒岳登山道周辺及び住川地区）：10/31～11/30 ⑬ 羅臼町全域：9/15～12/14
	《特に山林作業者に対する注意喚起》 冬期間の緊急性の高い出没情報を収集し、関係機関で情報共有【1～3 月】	○北海道林業事業体を対象に、適切な森林施業と労働安全衛生管理に必要な情報を提供するため水産林務部林業木材課事業体育成係が作成する「森林の玄人」に注意喚起の記事を提供。
	各種広報媒体等を通じた、冬期間における注意喚起【1～3 月】	○同上
(2) 人里への出沒対策	ヒグマが出没した際、関係機関が連携して被害の発生又は拡大防止のための必要な措置に加え、「北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業」を活用した専門家による助言等を実施【随時】	○専門人材としてヒグマの専門的知識を有する者に加え、ドローンによる捜索等、後方支援者も登録の対象とした。（R6. 5 現在 25 者（個人・法人）登録）

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況		
		○派遣実績（11 件）		
		派遣月日	派遣先	概 要
		5/5、6/24、 6/29、7/14	標茶町	OS018 の探索、捕獲の支援
		5/12、13	枝幸町	電気柵設置や草刈り、捕獲手法を助言
		5/15	幌加内町	搜索活動や問題個体捕獲に関する助言、痕跡調査の実施
		5/24、25	室蘭市	痕跡調査やヒグマの生息環境調査の実施、今後対応策を助言
		8/30	札幌市 江別市 北広島市	問題個体捕獲に関する助言
		9/29	江差町	問題個体捕獲に関する助言や防除対策に係る助言
		12/8	音更町	林業事業体経営者や従事者を対象とした「ヒグマの生態や被害の防止対策等に関する研修会」における講師
		2/28	浜頓別町	人身被害防止、農業被害対策についての講演会における講師
		3/11	帯広市	「十勝地域野生鳥獣等対策連絡協議会」参加者を対象としたヒグマ人里出没時の対応についての講師
		3/14	札幌市	警察署を対象に、警職法で対応を想定した机上訓練やヒグマの生態や対処法についての講師
		3/22、25	乙部町	ヒグマの動向を確認するためのドローンによる搜索
	人家近くに誘引するおそれのある廃棄物の適正管理の徹底について普及啓発を実施【通年】	○ホームページやリーフレット等を通じて広報啓発を実施		

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況																			
	<p>(堅果類結実状況調査の実施)</p> <p>秋の主要な食物 4 種（ミズナラ、ブナ、ヤマブドウ、サルナシ）の実なり状況調査を実施し、実なりが悪くヒグマの出没が増えるおそれがあると判断される場合は、広く注意喚起し、被害防止の徹底を図る。【9 月】</p>	○R5 堅果類結実状況調査の実施																			
		<table><tr><th>堅果類</th><th>調査地点</th><th>調査実施機関</th></tr><tr><td>ミズナラ</td><td>336</td><td rowspan="3">北海道森林管理局、大学演習林（北大、東大、京大、九大）、各（総合）振興局、市町村、道総研、自然環境保全団体</td></tr><tr><td>ブナ</td><td>30</td></tr><tr><td>ヤマブドウ、サルナシ</td><td>265</td></tr></table>	堅果類	調査地点	調査実施機関	ミズナラ	336	北海道森林管理局、大学演習林（北大、東大、京大、九大）、各（総合）振興局、市町村、道総研、自然環境保全団体	ブナ	30	ヤマブドウ、サルナシ	265									
堅果類	調査地点	調査実施機関																			
ミズナラ	336	北海道森林管理局、大学演習林（北大、東大、京大、九大）、各（総合）振興局、市町村、道総研、自然環境保全団体																			
ブナ	30																				
ヤマブドウ、サルナシ	265																				
		○令和 5 年 10 月調査結果公表 結果：ドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）及びヤマブドウは全道で実なりの悪い傾向が見られ、サルナシにおいても半数の地点で不作の状況が見られた。報道発表、ホームページで公表。																			
(3) 人身被害発生時の対応	<p>ヒグマ人身事故発生時の対応方針に基づき、発生状況に応じて、関係機関が連携し地域住民への注意喚起を行うなど、加害個体による二次被害の発生等を防ぐための取組を行う。</p> <p>また、現地調査等による人身事故の発生原因等の検証及び概要の公表を行い、事故防止策に活用するとともに、人身事故等が発生した場合は、「北海道ヒグマ注意報等」を活用し、道民への注意喚起を行う。【随時】</p>	○発生状況（6 件）																			
		<table><tr><th>発生日</th><th>発生場所</th><th>概 要</th></tr><tr><td>4 月 1 日</td><td>厚岸町</td><td>散歩中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。</td></tr><tr><td>5 月 14 日</td><td>幌加内町</td><td>釣り中に遭遇し 1 名死亡。後に加害個体を駆除。</td></tr><tr><td>6 月 28 日</td><td>羅臼町</td><td>シカ駆除中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。</td></tr><tr><td>10 月 13 日</td><td>釧路市</td><td>林道を自転車で走行中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。</td></tr><tr><td>10 月 29～31 日</td><td>福島町</td><td>登山中に遭遇し 1 名死亡、2 名負傷。兼務発令した振興局職員に現地派遣を要請するとともにヒグマ対策室からも職員を派遣。注意報発出。</td></tr><tr><td>11 月 21 日</td><td>滝上町</td><td>狩猟中に襲われ 2 名負傷。加害個体を駆除</td></tr></table> <p>・報道発表、ホームページ、ツイッター、Yahoo 防災による注意喚起</p> <p>・道総研に現地調査を依頼し、発生原因等の検証を実施</p>	発生日	発生場所	概 要	4 月 1 日	厚岸町	散歩中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。	5 月 14 日	幌加内町	釣り中に遭遇し 1 名死亡。後に加害個体を駆除。	6 月 28 日	羅臼町	シカ駆除中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。	10 月 13 日	釧路市	林道を自転車で走行中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。	10 月 29～31 日	福島町	登山中に遭遇し 1 名死亡、2 名負傷。兼務発令した振興局職員に現地派遣を要請するとともにヒグマ対策室からも職員を派遣。注意報発出。	11 月 21 日
発生日	発生場所	概 要																			
4 月 1 日	厚岸町	散歩中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。																			
5 月 14 日	幌加内町	釣り中に遭遇し 1 名死亡。後に加害個体を駆除。																			
6 月 28 日	羅臼町	シカ駆除中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。																			
10 月 13 日	釧路市	林道を自転車で走行中に遭遇し 1 名負傷。注意報発出。																			
10 月 29～31 日	福島町	登山中に遭遇し 1 名死亡、2 名負傷。兼務発令した振興局職員に現地派遣を要請するとともにヒグマ対策室からも職員を派遣。注意報発出。																			
11 月 21 日	滝上町	狩猟中に襲われ 2 名負傷。加害個体を駆除																			
(4) 農業被害の防止	<p>電気柵の設置促進、農地周辺の刈り払いなど侵入経路の管理や誘引物の適正管理の指導について、電気柵メーカーの協力を得ながら農政部局や市町村等と連携して普及に努める。【通年】</p>	<p>○市町村地域協議会等において、農林水産省の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、被害防止計画に基づく農作物被害の防止・軽減を図るための取組を実施</p> <p>・電気柵の設置</p> <p>・捕獲機材（箱わな）の導入</p> <p>・有害捕獲活動経費の支援</p> <p>○ヒグマ対策防除技術対応実践研修にて、市町村職員や農業関係者、一般住民を対象とした電気柵導入についての研修を振興局で実施（オホーツク、空知、上川など）</p>																			

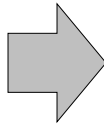
令和 5 年度事業実施計画		進捗状況
(5) ゾーニング管理の導入検討	<p>ヒグマの生息する区域、人間活動を優先する区域、出没を抑制する緩衝区域など、ゾーニング管理の導入に向けた具体的な検討を行う。</p> <p>当該検討にあたっては、学識経験者等を構成員とする北海道ヒグマ保護管理検討会に加え、自治体など現場精通者による検討部会を立ち上げ検討を行う。【年 3 回開催】</p>	<p>○ゾーニング管理導入に向けた具体的な検討を行うにあたり、課題の洗い出しなどを目的に、春期管理捕獲を実施しているなどヒグマ対策に積極的な市町村を各地域から選定しヒアリングを実施</p> <p>①3/4 農村地域（三笠市、森町、共和町、滝上町、幌加内町、足寄町）</p> <p>②3/7 海岸地域（えりも町、遠別町、浜頓別町、羅臼町、島牧村）</p> <p>③3/8 都市地域（旭川市、石狩市、帯広市、釧路市、千歳市、七飯町）</p>
(6) 問題個体数の動向把握	<p>迅速に市町村など関係者間で情報共有できるシステムを活用し、出没情報及び被害発生状況の情報等を収集し、速やかに研究機関（道総研）に提供する。</p> <p>研究機関（道総研）は、提供された情報を解析し、問題個体数の把握を行う。</p> <p>R 5 年度においては、直近のデータ（R 3）の解析を優先的に進めるとともに、順次過去データの解析を実施し、今後、保護管理における評価手法として問題個体に係るデータをどのように取り扱うかなどについての検討を段階的に進める。【通年】</p>	<p>○収集したデータを個体群管理に具体的に活用するに至っていないため、データ整理の手法の見直しなど実用化に向けた検討を図る。なお、環境省による「令和 5 年度クマ類の出没に対する体制構築等事業」において、札幌市周辺の市町村担当者を対象に研修を実施。研修後の体制構築の協力の呼びかけに対し、7 市町が参画を表明。参画自治体から出没個体や捕獲個体の遺伝試料の提供を受け、道総研に個体識別の検査を依頼。検査結果は関係機関と共有することで広域市町村による問題個体追跡体制の構築を試みた。</p>
<p><総括></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業」では、専門人材としてヒグマの専門的知識を有する者に加え、ドローンによる搜索等、後方支援者も登録の対象とし、問題個体の搜索や捕獲の支援、電気柵設置に対する助言等を行い、事案対策に貢献。 ・ 外国語版のリーフレットや、様々な対象に向けた啓発のための有効なツールとして「ヒグマ検定」を作成し、より広い対象に啓発を行った。 ・ 問題個体の動向把握をいかに計画にフィードバックするかが課題。 ・ 今後も被害防止対策の推進に向け、「ヒグマ検定」を活用した啓発活動等のさらなる展開や展示用の普及啓発資材（トランクキット）を作成するなど、取組の強化を図っていく。 		

2 調査研究とモニタリング

令和5年度事業実施計画		進捗状況								
(1) 個体数指数の動向調査	ヒグマ捕獲票による捕獲情報の収集【随時】	○狩猟者や市町村などから報告のあった捕獲票を基に狩猟や許可捕獲による人為的死亡率等を推定								
	広域痕跡調査の実施【6～11月】	○国有林からは211森林事務所318担当区のうち196森林事務所297担当区から、道有林からは全ての森林室（13ヶ所から）、大学演習林からは全ての演習林（8ヶ所）から情報提供を受けた。 ○道総研に分析を依頼し、一定距離ごとの痕跡発見数（糞・足跡・食痕/Km）から長期間の増減傾向を推定								
	個体数把握調査（ヘアトラップ、カメラトラップ調査）の実施【6月～8月の間に実施予定】	○6月26日から8月29日にかけて上ノ国町及び松前町の33地点で現地調査を実施								
	ヒグマにおけるカメラトラップ法等、新たな調査手法構築に向けた検討検証事業実施【6月～8月実施予定】	○ヒグマ個体識別技術の検討検証 AI等のデータサイエンス技術を用いたヒグマ個体識別手法の検討検証を実施し、ヘア・トラップ調査等による従来の個体識別手法との比較により識別精度向上に向けた検証事業を実施								
(2) 捕獲個体分析調査	捕獲個体試料からの年齢及び食性等の把握【随時】	○867検体（R6.5月暫定値）の提供を受け、捕獲個体資料から齢構成等の分析を実施								
(3) 問題個体の動向調査	市町村等からのヒグマの出没情報及び被害発生状況の情報の収集及び研究機関（道総研）への提供【通年】	○市町村等からのヒグマの出没情報等については、随時道総研に対し情報提供するとともに、人身被害6件（厚岸町、幌加内町、羅臼町、阿寒町）は現地調査を依頼し、事故原因等进行分析。								
(4) 生息環境調査	堅果類結実状況調査の実施【9月】	○R5 堅果類結実状況調査の実施【再掲】								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>堅果類</th><th>調査地点</th><th>調査実施機関</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミズナラ</td><td>336</td><td rowspan="3">北海道森林管理局、大学演習林（北大、東大、京大、九大）、各（総合）振興局、市町村、道総研、自然環境保全団体</td></tr> <tr> <td>ブナ</td><td>30</td></tr> <tr> <td>ヤマブドウ、サルナシ</td><td>265</td></tr> </tbody> </table> <p>○令和5年10月調査結果公表【再掲】 結果：ドングリ（ミズナラ及びブナの堅果）及びヤマブドウは全道で実なりの悪い傾向が見られ、サルナシにおいても半数の地点で不作の状況が見られた。報道発表、ホームページで公表。</p>	堅果類	調査地点	調査実施機関	ミズナラ	336	北海道森林管理局、大学演習林（北大、東大、京大、九大）、各（総合）振興局、市町村、道総研、自然環境保全団体	ブナ	30
堅果類	調査地点	調査実施機関								
ミズナラ	336	北海道森林管理局、大学演習林（北大、東大、京大、九大）、各（総合）振興局、市町村、道総研、自然環境保全団体								
ブナ	30									
ヤマブドウ、サルナシ	265									

令和 5 年度事業実施計画	進捗状況
<p>＜総括＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ ヒグマの各個体群の状況把握及び人とヒグマとのあつれきの低減を目的としたモニタリングを充実させていくことが必要。・ 個体数指数の動向調査の精度向上に向け、AI による個体識別技術の向上等を推進する。	

3 総捕獲数管理

令和5年度事業実施計画					進捗状況			
<p>北海道管理計画（第2期）に基づいて、それぞれの地域毎に管理措置を実施する。</p> <p>令和5年度の管理措置については、別添のとおりとする。【通年】</p> <p>なお、地域別捕獲上限数の確認及び令和6年度事業実施計画及び管理措置の策定に向け、下記の表に、令和5年度のメス捕獲実績（速報値）を入力し、計画期間中のメス捕獲上限到達割合を把握し、総捕獲数管理として適切な対応を行う。</p>					<p>○令和5年度のメス捕獲実績（R6.3月末時点）は以下のとおり。</p>			
地域名	R2 個体数 中央値	計画期間 総メス 捕獲上限数	計画期間中の メス捕獲実績 （R4.12時点）	計画期間内 メス捕獲上限 到達割合（％）		地域名	計画期間中の メス捕獲実績 （R4 確定値 + R5 速報値）	計画期間内 メス捕獲上限 到達割合（％）
渡島半島	1,840	500	48	9.6		渡島半島	174	34.8
積丹・恵庭	760	60	7	11.7		積丹・恵庭	34	56.7
天塩・増毛	850	60	5	8.3		天塩・増毛	41	68.3
道東・ 宗谷西部	2,330	600	78	13.0		道東・ 宗谷西部	233	38.8
道東・ 宗谷東部	1,650	275	45	16.4		道東・ 宗谷東部	154	56.0
日高・夕張	4,260	825	59	7.2		日高・夕張	225	27.3
合計		2,320	242	10.4		合計	861	37.1
<p><総括></p> <ul style="list-style-type: none">全ての地域において、メス捕獲上限数には達していない。計画期間内の捕獲可能頭数が少なくなっている積丹・恵庭、天塩・増毛の両地域においても増加傾向にあることが示唆されていることを踏まえ、すべての地域で令和6年度の管理措置を「通常措置」とする。ヒグマ管理計画の見直しに伴い、捕獲数管理のあり方も再検討する。								

4 体制構築に向けた取組

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況
(1) 地域連絡協議会	<p>各（総合）振興局管内を単位として設置されている地域連絡協議会を開催するとともに、コーディネーター役として地元関係機関の連携及び情報の共有、連絡調整の円滑化促進を図る。【年 1 回以上、随時開催】</p> <p>また、各（総合）振興局は、地域版実施計画（アクションプラン）に基づき、防除対策の研修等、関係機関相互の連携を強化し地域対応力の強化を図る。【随時】</p>	<p>○地域連絡協議会の開催状況</p> <p>各（総合）振興局で年 1 回程度実施</p> <p>○地域連絡協議会の場に専門家を招き、ヒグマ対策に係る講演会を開催し、地域対応力の強化を図る（宗谷総合振興局）。</p> <p>○各振興局において、ヒグマ管理計画に基づく、関係機関による防除方針等の認識共有、捕獲体制の整備、住民への情報伝達市街地出没時の対応訓練の実施などを記した、地域における実施計画を策定。R5.3 月～7 月にかけて、全ての振興局で策定済み。</p> <p>○令和 5 年度末から令和 6 年度初めにかけて、年間の実施結果を踏まえた評価及び令和 6 年度の計画を策定。</p>
(2) ICT を活用したヒグマに強い地域づくり実証モデル事業	R4 に引き続き GIS を活用したヒグマ出没リスクの評価（衛星画像、地形図等）と現地調査（ドローン、自動撮影カメラ等）によるヒグマ出没経路抽出手法、効果的な遮断方法の効果検証を実施する。【R5】	○ヒグマによるあつれきに対処するため、ICT 等を活用しヒグマの出没経路や重点監視エリア等を GIS 上で抽出する方法等を検証するモデル事業を旭川市、鷹栖町、比布町を対象地域として実施し、「ヒグマ出没環境抽出マップの活用手引き」を作成。引き続き、別地域・別環境で事業を実施し、知見を深め、マニュアル化することで市町村への展開を図る。
(3) 北海道ヒグマ保護管理検討会	本計画を科学的及び専門的知見に基づき推進するため、学識経験者等からなる北海道ヒグマ保護管理検討会を開催し、ゾーニングに係る検討や計画の進捗状況等について分析・評価を行う。【年 2 回 開催予定】	<p>○開催状況（計 3 回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回 8 月 28 日開催 議題 ヒグマと向き合うランドデザインについて 等 ・第 2 回 10 月 16 日開催 議題 ヒグマ管理計画の見直しの方向について 春期管理捕獲について ・第 3 回 3 月 25 日開催 議題 個体数管理のあり方などについて モニタリングのあり方について ゾーニング管理の導入について 等
(4) ヒグマ保護管理人材育成研修会	振興局職員、市町村職員等を対象に、知識及び技術の向上を図り、地域における総合的なヒグマ対策の保護管理の担い手を育成するための研修会を開催する。【通年】	○ヒグマ対策に必要な管理体制の構築を推進するため、地域における総合的なヒグマの管理保護の育成を目的に、振興局、市町村、警察等を対象とした室内研修及びヒグマ出没時の机上訓練を道内 4 カ所で実施したほか、野外研修を道内 2 カ所で実施、計 59 市町村 136 名が参加。

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況					
		【室内研修実施状況】					
		実施月日		実施地域			
		9/20～9/21		日高			
		10/16～10/17		空知			
		9/28～9/29		檜山			
		10/23～10/24		オホーツク			
		【野外研修実施状況】					
		実施月日		実施地域			
		9/13～9/14		石狩			
		10/11～10/12		上川			
(5) ヒグマ対策技術者育成のための捕獲	近年、人への警戒心が薄いヒグマが人里に出没している状況を鑑み、人への警戒心を持たせ人里への出没抑制を図ることを目的とし、比較的安全に捕獲圧をかけることができる残雪期に許可捕獲を行うとともに、ヒグマ捕獲技術の伝承を行い、ヒグマへの対応力の強化を図る。 【2～5 月】	○人里出没抑制等のための春期管理捕獲を実施。 【春期管理捕獲実施状況】※5 月 31 日時点の暫定値					
実施期間		市町村数 (実施箇所)		捕獲許可 件数		捕獲総数	
R6 2/1～5/31		集計中		61		14	
R5 2/9～5/20		19		27		20	
【R6 春の捕獲実績】							
月		市町村 (捕獲数)			捕獲数計		
3 月		中川町 (1)、標津町 (1)			2		
4 月		知内町 (2)、森町 (1)、標津町 (1)、島牧村 (2)、八雲町 (1)、三笠市 (1)、えりも町 (2)			10		
5 月		えりも町 (1)、三笠市 (1)			2		
○R6.2 から道による財政的支援を実施、実施後の効果検証については、今後取りまとめることとする。							
○春期管理捕獲を利用したヒグマ捕獲従事者の育成研修として、道内各市町村が実施する「令和 6 年人里出没抑制等のための春期管理捕獲事業」に、他の市町村からヒグマの捕獲経験の浅いヒグマ捕獲従事者を研修生として参加させることで、春期管理捕獲を共に行う経験を通じたヒグマ捕獲従事者の育成を図る研修を興部町及び標津町にて実施。							

令和 5 年度事業実施計画		進捗状況
(6) 狩猟者の確保	狩猟免許取得の促進を図る出前教室の開催を通じ、地域の捕獲の担い手確保の促進を図る。【随時開催】	○釧路総合振興局、留萌振興局で出前教室を開催
(7) 振興局職員への野生動物研修	道の環境部局新任基礎研修において、野生動物に係るカリキュラムを実施した、保護管理人材の育成【6～9 月の間に開催予定】	○地域における対応力強化を目的に、ヒグマ対策室の兼務発令を受けた振興局職員等を対象とした「令和 5 年度ヒグマ対策室職員等研修会」を開催。21 名参加し、ヒグマ試料の採取や資機材の使用方法等についての実習を実施。
<p><総括></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度 of 取組により、各振興局における地域版実施計画が策定されたところ。今後は各振興局の計画の実効性を高めるため、各地域の実態に応じた対策とその進捗管理を図るとともに、職員の専門性を高めるための研修を強化し、人材育成等の取組をより一層進めていく。 春期管理捕獲においては、財政的支援を実施したことで市町村が大幅に増加。狩猟者のヒグマ捕獲技術の向上も期待でき、重要な取組と考える。 狩猟者確保においては、狩猟免許取得の機会増加の取組の他、クマ撃ち未経験者の狩猟者を対象に、経験者を講師とする講習会を実施するなど、地域対応力の強化を進める。 		

■ 管理の目標

北海道ヒグマ管理計画（第2期）（以下、「2期計画」という。）において、計画の目的の1つである「ヒグマ地域個体群の存続」を達成するため、次の目標を定めている。

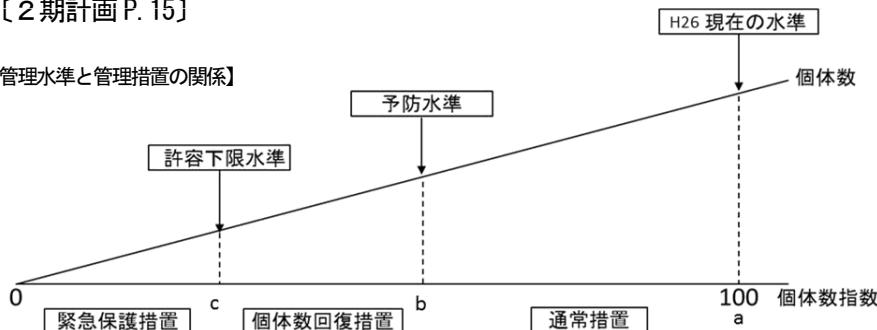
各地域個体群の個体数指数を、**予防水準**以下には下げない。〔2期計画 P. 10〕

※ 予 防 水 準：絶滅のおそれが高まることを予防する水準（400 頭）

※ 許容下限水準：遺伝的多様性の維持及び健全な個体群の存続に必要な個体数（200 頭）

- ・ 地域個体群ごとに平成 26 年現在の推定生息数を基準（個体数指数 100(=a)）とし、上記の2種類の管理水準を定め、その時点の個体数指数の位置に応じて、3段階の管理措置のいずれかを講ずることとしている。〔2期計画 P. 15〕

【図：管理水準と管理措置の関係】



個体数指数	管理措置	捕獲上限数
$b \leq \text{個体数指数}$	通常措置	個体数指数が予防水準を下回らないと考えられる年間捕獲上限数を設定し、総捕獲数をそれ以下に抑制
$c \leq \text{個体数指数} < b$	個体数回復措置	個体数の増加が期待できる年間捕獲上限数を設定し、総捕獲数をそれ以下に抑制することで、個体数の回復を図る
個体数指数 $< c$	緊急保護措置	地域個体群の絶滅を回避するため、狩猟及び許可捕獲を制限することで、総捕獲数を可能な限り抑制

○地域別の捕獲上限数の設定

メスの捕獲が個体群の動向に顕著な影響を与えることから、（中略）令和 13 年時点における絶滅確率を 5 % 以下とする捕獲上限数を定め（中略）、計画期間の 5 年間のメスの総捕獲数に上限を設けて管理する。

〔2期計画 P. 17〕

表 1：地域個体群別のメスの捕獲数の状況【R6. 3 月末時点】

地域個体群別のメスの捕獲数の状況について【速報値R5.3時点】									第 1 期（H29～R3）計画の地域別メスの捕獲状況について（参考）					
地域名	R4	R5	R6	R7	R8	計	計画期間の	捕獲可能頭	計画期間内	第 2 期（R4～R8）年 間年平均メス捕獲数 （1年あたり）	第 1 期（H29～ R3）計画期間の	第 1 期（H29～ R3）メスの合計	第 1 期（H29～R3） 年間年平均メス捕獲 数（1年あたり）	第 1 期（H29～ R3）メス捕獲上限
						R4～R8 (1)	上限頭数 (2)	数 (2)～(1)	メス捕獲上限 到達割合(%)		上限捕獲数	捕獲数	到達割合（%）	
渡島半島	51	123				174	500	326	34.8	100	400	301	60	75.3
積丹・恵庭	9	25				34	60	26	56.7	12	20	41	8	205.0
天塩・増毛	6	35				41	60	19	68.3	12	20	32	6	160.0
道東・宗谷	西部	90	143			233	600	367	38.8	120	600	538	108	89.7
	東部	51	103			154	275	121	56.0	55	200	175	35	87.5
日高・夕張	79	146				225	825	600	27.3	165	750	377	75	50.3
合計	286	575				861	2,320	1459	37.1	464	1990	1464	293	73.6

※ 積丹・恵庭地域、天塩・増毛地域では、第 1 期計画期間内のメスの捕獲上限数が超過したものの、令和 4 年末におけるヒグマ個体数の推定結果によると、両地域とも個体数が増加傾向にあることが示唆されている。

○管理方法

計画期間内において、地域個体群ごとに雌雄別捕獲数を把握し、メスの捕獲上限数を超えるおそれが生じたときは、該当する地域個体群の個体数水準を検証するとともに、次のとおり捕獲の抑制を図る。

（ア）通常措置における捕獲の自粛要請

該当する地域個体群の個体数指数が予防措置水準を下回るおそれがある場合は、狩猟による捕獲の自粛を猟友会等に要請する。〔2期計画 P. 18〕

令和6年度については、全ての地域において、メス捕獲上限数に達しておらず、計画期間内の捕獲可能頭数が少なくなっている積丹・恵庭、天塩・増毛の両地域においても増加傾向にあることが示唆されていることを踏まえ、すべての地域で管理措置を「通常措置」とする。